

## バネ工場のブロック



バネのブロック「スプリング」で作られたカエルやネコやペン立て（写真上）。バネとバネをつなぐジョイント部分を作る五光発條のスタッフ（同下、横浜市瀬谷区）



まだ自社サイト限定の販売のため販売数は少ないものの、こうした一般的消費者になじみの薄い素材やテーマの玩具は物珍

年は外国人観光客の日本土産としても人気があ  
り、13年は前年比2割増の売上高となつた。  
スプリンクの本格販売

# 工業系キットで

エルの部品を使って恐竜の頭を作った。鶴岡さんは「バネが動くため、自由度が高い。金属の質感が現代アートに見える」と自分の作品に満足そうだ。

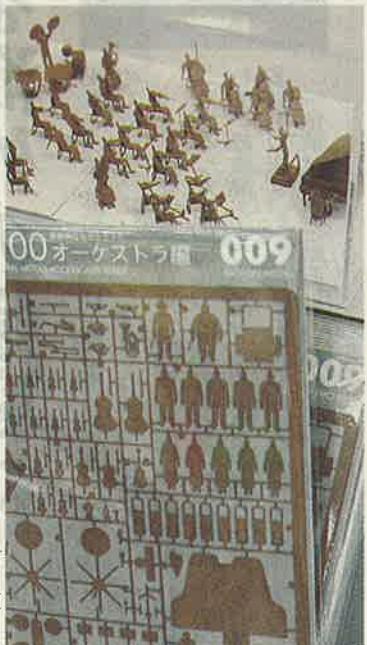
社長室には7万個以上のバネを使った「昇り龍」や、つばの曲線が美しい「ぼうし」、伸びを出す「猫」などの作品がずらりと並ぶ。

建築模型用ミネコキット

伸ばして、縮めて、曲げて……。バネ製造の五光発條（横浜市）が開発した金属製のバネをつなげて遊ぶブロック「SPLINK（スプリング）」が話題になっている。従来のブロックでは難しかった曲線や細かい動きを表現できるバネの特性にはまる人も多い。100を超えるパーツをつなぐ作業に没頭すれば、ストレス解消にもなりそうだ。

「テレビを見ながらバネを曲げたり、伸ばしたりしていると作品のアイデアが出るんです」。会社員の鶴岡恒平さん（42）は昨年12月にカエルを作り、曲線を生かした作品

# 建築模型用ミニ風景



# 精密世界

1枚の紙を切り抜いて作るテラダモケイの「1／100建築模型用添景セット」(東京都渋谷区の東急ハンズ新宿店)

セツト品を追加する。  
五光発條は高い技術力を持ち、カメラ向けバネでシェア6割を握るもの、生産コストの安い海外の工場との価格競争に陥っている。「企業の認知度や製品の付加価値を高めたい」(村井社長)というがバネ製プロツク開発の動機だ。

市)が販売する「テラダモケイ」だ。

2013年2月に試作品の開発に着手。クラウドファンディングを使い、資金55万500円を調達した。出資者から試作品のバネの固さや難易度などの評価や、パッケージのデザインなど様々な支援を受けて商品化にこぎ着けた。

で製作に没頭。「実際の風景を想像して作るのが楽しい」と話す。

はこれから。五光発條には東急ハンズなど小売店から取り扱いの打診が相次ぎ、一般流通の準備を進めている。

実際に遊んでみると、バネを組み合わせて立体を作り手のセンスが求められる。ただ、押すと柔らかく曲がるバネの手ざわりの良さは新たな発見。工業部品に宿る、精密かつ繊細な感触が伝わってきた。

## 大人没頭、ストレス発散

セット品を追加する。

しさもあって大人を引き付ける。すでに大人の間でヒットしている商品が福永紙工（東京都立川市）が販売する「テラダモケイ」だ。